学則の変更の趣旨等を記載した書類

ア　学則変更（収容定員変更）の内容..... 2

イ　学則変更（収容定員変更）の必要性..... 2

ウ　学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容..... 3

音楽研究科収容定員変更に伴う大学院学則の一部改正について

学則の変更の趣旨等を記載した書類

ア　学則変更（収容定員変更）の内容

フェリス女学院大学大学院音楽研究科は、令和 5（2023）年度入学者から、以下の表のように収容定員を変更する。音楽芸術専攻の入学定員を現在の 5 人から 1 人増の 6 人とし、収容定員を 10 人から 2 人増の 12 人とする。また、演奏専攻は令和 5（2023）年度から募集を停止する。

収容定員（入学定員）変更計画

学　科	現　行		変更後		現行と変更後の差	
	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
音楽芸術専攻	5	10	6	12	＋1	＋2
演奏専攻	12	24	0	0	△12	△24
計	17	34	6	12	△11	△22

イ　学則変更（収容定員変更）の必要性

音楽研究科の基礎学部である音楽学部は、平成 31（2019）年度に、音楽芸術学科と演奏学科の 2 学科体制から音楽芸術学科 1 学科体制に構成を変更、同時にカリキュラム改革を行った。音楽文化やその表現方法、さらにそれらの周辺環境は、情報通信技術等の進展に伴い急速に、しかも大きく変化し多様化を続けている。これを受けて、特に実社会との接続やグローバル化への対応に配慮し、音楽及び広義のアートシーンで活躍できる人材の育成を目的としてカリキュラムを充実化した。伝統的な従来型の教育方法のなかで重要視すべき分野は残しつつも、音楽分野の教育に対する現代社会の要請に応え、音楽を通した実社会との接点を積極的に取り入れた教育が功を奏し、音楽芸術学科の志願者及び入学者に関しては、近年、比較的安定的な状態で推移している【資料 1】。

そこで、音楽研究科も、基礎学部である音楽学部と連動させて改革を行うこととする。音楽学部で学んだ学生がより高度な専門知識や表現技術を身につけ、音楽を自らの人生や社会におけるコミュニケーションツールとして活用できるように、また音楽に限らずさまざまなビジネス・文化シーンで活躍できる人材となるよう、「社会とつながる学び」の専門性をさらに高度化した教育研究を行う。専攻の構成についてもこれまでの 2 専攻から、高度なリベラルアーツ型教育研究の進路として一新することとし、「音楽研究科音楽芸術専攻」に一本化する。開設は、平成 31（2019）年度に新しい音楽学部に入学した学生が大学院進学を迎える令和 5（2023）年度とする。音楽を通した実社会においての実践的な学びをこれまで以上に幅広く導入した新たな学びの環境を実現し、国際理解力、コミュニケーション力、イノベーション力などをもった新しい時代の創造性豊かな人材を養成する。

ウ　学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容

(ア)教育課程

フェリス女学院大学大学院は、「キリスト教を教育の基本方針となすフェリス女学院大学の建学の精神に基づき、高度の専門の学術に関して、その研究方法、理論及び応用を教授研究し文化の進展に寄与するとともに、人類の福祉と世界の平和に貢献する能力をもった女性を育成すること」を目的としている（大学院学則第１条)。

音楽研究科の改編に当たり、音楽芸術専攻の人材養成目的や三つの方針も見直しを行った【資料 2】。カリキュラムに直結するカリキュラム・ポリシーは次のように設定する。

《音楽研究科音楽芸術専攻カリキュラム・ポリシー》

音楽文化の広範囲の領域に関する研究科目（コースワーク）及び演習科目（リサーチワーク）を適切に組み合わせたカリキュラムを設置する。少人数制の専門教育や修士論文指導をとおして高度な専門的知識や専門技術、研究方法を修得し、社会との接点を持つ実践的な科目及び専攻分野を横断する学際的な科目を置くことにより、現代社会で活動するために必要となる高度な実践的能力を養う。また、より専門性の高い知識や理論、高度な表現技術を身に付けることができるように、選択科目として、少人数の専門研究科目及び個人レッスンやアンサンブル科目を置く。

カリキュラムは「音楽文化系」「音楽表現系」の 2 つを柱とし、各系統に 5 つの研究主題を設定する。授業科目は、5 つの研究主題に対して研究科目（コースワーク）と演習科目（リサーチワーク）を開設し、加えて選択科目を置くことにより音楽芸術の広範囲の領域に関する高度な専門的知識や研究方法の修得を可能とする。また、専門的な演奏能力・デジタル技術力や研究力を含む各種表現技術が身に付くよう、個人レッスンを主体とした大学院 PA（パフォーミング・アーツ）科目群を置く【資料３】。選択科目において行われるアンサンブル形式の授業等と適切に組み合わせて履修することで、専門技術の実践を積むことができる。

(イ)教育方法及び履修指導方法

専攻の中では「音楽文化系」「音楽表現系」の 2 つをカリキュラムの柱とし、各系統に 5 つの研究主題を設定する【資料 4】。研究指導教授及び研究指導補助教員による指導のもと、研究主題に対して置かれている研究科目（コースワーク）と演習科目（リサーチワーク）を履修し、専門分野に関する修士研究や修士論文作成に繋げる。さらに選択科目や大学院 PA（パフォーミング・アーツ）科目を履修し、高度な実践的能力及び専門的な演奏能力・表現技術を身に付けるとともに、専門分野を越えた総合的な知識をも獲得させ、社会人・職業人として必要な専門的見識と高い教養を養う。

(ウ)教員組織

教員組織については、カリキュラムの柱となる「音楽文化系」「音楽表現系」それぞれに

研究指導教員を配置する。また、十分な人数の研究指導補助教員を配置し、少人数制の専門教育や修士論文指導を実現する。具体的には、「音楽文化系」「音楽表現系」に各 1 名の研究指導教員と各 4 名の研究指導補助教員を配置する。1 研究科 1 専攻体制に変更することに伴い、「音楽学専攻」分野の大学院設置基準を満たし、かつ収容定員に見合う組織として合計 10 名で教員組織を構成する【資料 4】。

(エ)大学全体の施設・設備

施設については、基本計画書の「校地等」「校舎」にあるとおり、変更後の教育に支障のない面積が担保されている。

また、山手キャンパスにおいては、音楽学部・音楽研究科が二つの建物（6 号館と 8 号館）を使用していたが、平成 31（2019）年度に行われた音楽学部の改編後、学生・教員の利便性を高めることを目的として、IT 環境の整備や学修用機材の充実化も視野に入れた校舎の改修工事を行い、現在は 8 号館に音楽学部・音楽研研究科の教育研究施設が集約されている。敷地の異なる校舎間の移動も解消され、教育研究環境の全般的な改善・整備が行われた。

以上

資　料　目　次

資料１　平成 31（2019）年度から令和 4（2022）年度音楽学部音楽芸術学科入学試験結果

資料２　令和 5（2023）年度以降の音楽研究科音楽芸術専攻「人材養成目的」と「三つの方針」

資料３　令和 5（2023）年度以降の音楽研究科音楽芸術専攻カリキュラム

資料４　令和 5（2023）年度以降の音楽研究科音楽芸術専攻の研究主題及び教員組織

【資料１】　　平成 31（2019）年度から令和 4（2022）年度
音楽学部音楽芸術学科入学試験結果

学部学科		平成 31 (2019)年度	令和 2 (2020)年度	令和 3 (2021)年度	令和 4 (2022)年度
音楽学部 音楽芸術学科	入学定員	75	75	75	75
	志願者	295	342	219	119
	受験者	288	330	213	115
	合格者	130	131	136	106
	入学者	83	81	84	51
	入学定員超過率	1.11	1.08	1.12	0.68

【資料 2】　令和 5（2023）年度以降の音楽研究科音楽芸術専攻「人材養成目的」と「三つの方針」

音楽研究科の人材養成目的

音楽の領域に関する理論及び実践を教授研究し、高度に専門的な知識・能力・技術を持ち、かつ音楽界を多様に支える素養を兼ね備えた職業人を養成する。

音楽芸術専攻の人材養成目的

音楽の領域に関する理論と実践を通し、高度な知識を背景とした研究能力と表現技術を身につけ、音楽を専門とする今日的な職業に携わる人材を養成することを目的とする。

《三つの方針》

ディプロマ・ポリシー

音楽文化の領域における高度な専門知識および実践技術と研究方法を修得し、社会のニーズにあった音楽活動をするのみならず、芸術に理解ある社会の創造に社会人・職業人として貢献できる能力をもつ者に「修士（音楽)」の学位を授与する。

カリキュラム・ポリシー

音楽文化の広範囲の領域に関する研究科目（コースワーク）及び演習科目（リサーチワーク）を適切に組み合わせたカリキュラムを設置する。少人数制の専門教育や修士論文指導をとおして高度な専門的知識や専門技術、研究方法を修得し、社会との接点を持つ実践的な科目及び専攻分野を横断する学際的な科目を置くことにより、現代社会で活動するために必要となる高度な実践的能力を養う。また、より専門性の高い知識や理論、高度な表現技術を身に付けることができるように、選択科目として、少人数の専門研究科目及び個人レッスンやアンサンブル科目を置く。

アドミッション・ポリシー

音楽文化および音楽表現の領域に対する関心とその研究を進めるために必要な知識・技術と能力を有し、多様化する社会に専門的見地から社会人・職業人として貢献しようとする意欲を持つ者を受け入れる。

【資料 3】　令和５（2023）年度以降の音楽研究科音楽芸術専攻カリキュラム

種別	科目名	単位数
選択必修Ⅰ	音楽文化研究１A,B　（音とメディアテクノロジー）	(2)
	音楽文化研究２A,B　（サウンドデザイン）	(2)
	音楽文化研究３A,B　（音楽ジャーナリズム）	(2)
	音楽文化研究４A,B　（ポピュラー音楽）	(2)
	音楽文化研究５A,B　（ミュージック・カルチャー＆ビジネス）	(2)
	音楽表現研究１A,B　（共演コミュニケーション）	(2)
	音楽表現研究２A,B　（舞台芸術）	(2)
	音楽表現研究３A,B　（作曲編曲）	(2)
	音楽表現研究４A,B　（音と映像）	(2)
	音楽表現研究５A,B　（音楽教育）	(2)
選択必修Ⅱ	音楽文化演習１A,B　（音とメディアテクノロジー）	(2)
	音楽文化演習２A,B　（サウンドデザイン）	(2)
	音楽文化演習３A,B　（音楽ジャーナリズム）	(2)
	音楽文化演習４A,B　（ポピュラー音楽）	(2)
	音楽文化演習５A,B　（ミュージック・カルチャー＆ビジネス）	(2)
	音楽表現演習１A,B　（共演コミュニケーション）	(2)
	音楽表現演習２A,B　（舞台芸術）	(2)
	音楽表現演習３A,B　（作曲編曲）	(2)
	音楽表現演習４A,B　（音と映像）	(2)
	音楽表現演習５A,B　（音楽教育）	(2)
選択科目	音楽人間環境科学 A,B	(2)
	音楽・音響メディア表現論 A,B	(2)
	音楽教育と先端メディア A,B	(2)
	音楽の学術研究・情報論 A,B	(2)
	演奏様式研究理論と実践 A,B	(2)
	音楽家のための事業創造論 A,B	(2)
	アーティストのための身体論 A,B	(2)
	教会音楽研究理論と実践 A,B	(2)
	実技レッスン A,B※	(3)
	特別実技レッスン A,B※	(1)
選択必修Ⅲ	修士研究指導	(2)

※ 大学院 PA（パフォーミング・アーツ）科目：専門的な演奏能力・各種表現技術を身につけるための個人レッスンによる実技科目。

【資料 4】　　令和 5（2023）年度以降の音楽研究科音楽芸術専攻の研究主題及び教員組織

系統	研究主題	教員組織
音楽文化系	音とメディアテクノロジー	研究指導教員　1 名 研究指導補助教員　4 名
	サウンドデザイン	
	音楽ジャーナリズム	
	ポピュラー音楽	
	ミュージック・カルチャー＆ビジネス	
音楽表現系	共演コミュニケーション	研究指導教員　1 名 研究指導補助教員　4 名
	舞台芸術	
	作曲編曲	
	音と映像	
	音楽教育	